

【幼児期の終わりまでに
育ってほしい十の姿】

- ・健康な心と体
- ・自立心
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

【遊んで身に付く36の基本的な動き】

また、幼児の発達段階に合わせ、幼児自身が遊ぶ方を選べるように、自然の中で自由な発想で遊ぶことができるように留意した環境づくりを進めています。

【大雪「室内あそび」
の特徴】

国立大雪青少年交流の家では、これら「幼児期の子供たちに育みたいこと」を具現化するために、次のようなことをポイントとして、本プログラム及び「MORI ASOBI」(別冊)を開発しました。

プログラムのポイント

○安全・安心な環境づくり
 幼児の発達段階に応じて、安全に挑戦できる場が子供の挑戦を支えます。

○大人も本気になる仕掛けづくり
「記録」という明確な目標を設定し、大人も本気になる活動とすることです。子供のやる気を引き出します。友達と…様々な動きの獲得…挑戦心…



大雪「室内あそびプログラム」

これらのポイントをふまえて、次の8つのプログラムを整備しています。

- | | | | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------|-------------|-------------|------------------|----------------------------------|-------------------|-----------------------------|
| N
O. | N
O. | N
O. | N
O. | N
O. | N
O. | N
O. | N
O. |
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ピ
ン
ポ
ン・
ダ
ッ
シ | ボ
ウ
リ
ン
グ | ワ
ナ
ゲ | カ
プ
ラ | 親
子
の
絆 | ロ
ー
プ・
ジ
ャ
ン
プ | ケ
フ・
ダ
マ | ア
ニ
マ
ル・
ラ
ン |

今後、これらの他にも、種目の追加・整備を進め、子供たちの「遊びたい」を満足させつつ、発達段階に合わせた育みたい力を育てていくことができるプログラムづくりを進めていきます。



写真は、教育事業「たびうさぎファミリー」での活動です。

体のバランスをとる動き

たつ	おきる	まわる
くむ	わたる	ぶらさがる
さかだちする	のる	うく

体を移動する動き

すべる	とぶ	のぼる
あるく	はしる	はねる
はう	くぐる	およぐ

物を操作する動き

もつ	ささえる	はこぶ	おす	おさえる	こぐ
つかむ	あてる	とる	わたす	つむ	ほる
ふる	なげる	うつ	ける	ひく	たおす

- Tabiusa Guinness では、当機構で研究・プログラム開発を行っている幼児期における【36の基本的な動き】を取り入れた活動を行っています。
- 各種目には、種目についての研修を積んだ認定員による判断で記録を更新していくことができます。

